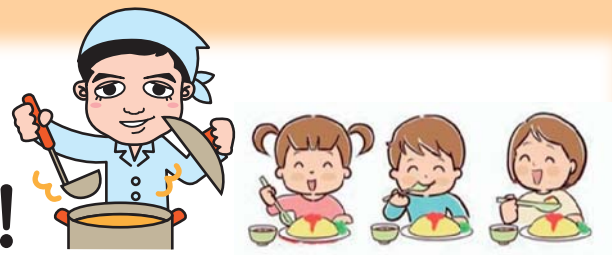


「こどもの居場所」としての/ 子ども食堂を支援しています!



*子ども食堂とは

任意団体やNPO法人、社会福祉法人、地域の方々などにより運営され、子どもたちに対して、無料または低額で食事や居場所を提供する食堂のことです。県では、子どもたちが安心して子ども食堂を利用できるよう、「鹿児島県子ども食堂登録制度」を設けています。



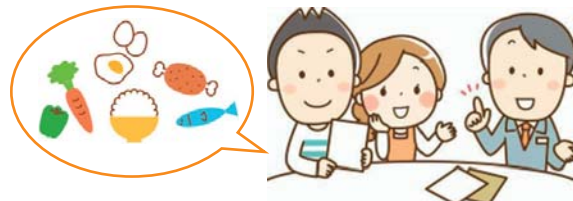
▲登録制度についてはこちら

*子ども食堂を立ち上げてみませんか?

子ども食堂を始めたい方や運営している方向けに、アドバイザーを派遣しています。

立ち上げのための計画づくりや、食材・ボランティア確保、継続的な運営に欠かせない衛生管理や資金の確保など、具体的にアドバイスします。

経験を基に、子ども食堂の運営に自信が持てるよう、丁寧に相談に乗ります!



子ども食堂を新たに立ち上げるグループ等に対して、立ち上げに必要な経費の一部を補助します。



▲アドバイザー派遣についてはこちら



▲補助についてはこちら

*地域で拠点づくりが進められています!

寄付される食品等の物資の受入れや配送、保管等を行うための拠点づくりを進める子ども食堂や企業・団体、地元の社会福祉協議会等で構成される団体を支援しています。

今年度は、薩摩川内市、南九州市、始良市、奄美大島、徳之島で進められる拠点づくりを支援します。



▲奄美子ども食堂・地域食堂ネットワーク話し合いの様子



▲薩摩川内市子ども食堂(コミュニティ食堂)ネットワーク話し合いの様子



*支援してみませんか?

子ども食堂を支援したい企業・団体と子ども食堂をマッチングする「子ども食堂支援企業マッチング」を開催しています。今年度は鹿児島市と南九州市で開催しました。

子ども食堂への支援の方法は、食材の寄付だけでなく、ボランティア参加や物資の運搬、チラシの配布など様々です。

地域の子どもの食堂を支えてみませんか?



▲子ども食堂支援企業マッチング in 南薩



県内には、**215カ所**
子ども食堂があります!(2024年9月現在)

県庁のほか、地域振興局や支庁等に、開設や運営についての相談窓口を設けています。
詳しくはこちら▶

問い合わせ先 子ども福祉課 099-286-2809



北朝鮮による拉致問題の一刻も早い解決を目指して ~皆さまのお力をお貸しく下さい~

北朝鮮による拉致問題とは

「拉致」とは、本人が望まないのに連れ去ることです。1970年代から1980年代にかけて、北朝鮮は多くの日本人を本人の意思に反して連れ去りました。

政府が北朝鮮による拉致被害者として認定している17名のうち、帰国を果たしたのはたったの5名であり、残りの12名については未だ帰国できておりません。

また、このほかにも拉致の可能性が疑われる方が多数存在しています。

本県の拉致被害者

1978年8月12日、二人は「夕日を見に行く」と言って日置市の吹上浜海岸に出かけたまま、こつせんと姿を消しました。



いしかわ しゅういち
市川 修一さん
(当時23歳)



ますもと るみ子さん
増元 るみ子さん
(当時24歳)

拉致被害者ご家族からのメッセージ



市川 健一さん
(市川修一さんの兄)

弟、修一が北朝鮮に拉致され今年で46年になります。

理不尽に拉致され、半世紀近くも永きに渡り、救出できない状況にやるせなさど憤りでいっぱいです。

国民の皆さまの強い支持がなければ、外交は動かせないのです。

拉致被害者救出実現のため、皆さまのお力をお貸しく下さい。よろしくお願いいたします。

「パネル展」・「ライトアップ」を実施します!

12月10日~16日は、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。県内各地で「パネル展」・「ライトアップ」を実施します。



▲詳しくはこちら

ブルーリボン
拉致被害者の
生存と救出を
信じる意思表
示を表してい
ます。

問い合わせ先 社会福祉課 099-286-2828